

旅先での階段

段ふみ

山寺周辺

新緑の季節、山形県にある宝珠山立石寺、通称山寺に行った。天台宗の寺院で、860年円仁が開山した。

1356年に再建された本堂（根本中堂）でお参り後、左へと進むと芭蕉と曾良の石像が。「閑かさや 石にしみ入る 蟬の声」の句が詠まれた地として名を馳せた寺だ。

右に折れると山門があり、拝観料を納め一路階段を上り始める。正直なところ拝観料ではなく入山料、お詣りではなく登山の気分である。

途中、道幅が狭くなっている**お手掛け岩**、道幅14cm程の**四寸道**など、狭小なところもあったが、まだ9時前なのですれ違う人もおらず先へと進む。

弥陀洞という阿弥陀如来の姿が見えると幸せになれるという大岩があるが、ただの岩にしか見えなかった。**仁王門**、朱に塗られた**納経堂**、**開山堂**まで進むと**五大堂**があり、そこからの眺めは絶景だ。眼下には仙山線、集落などが見下ろせる。この辺りまで来ると流石に少々息が荒くなる。



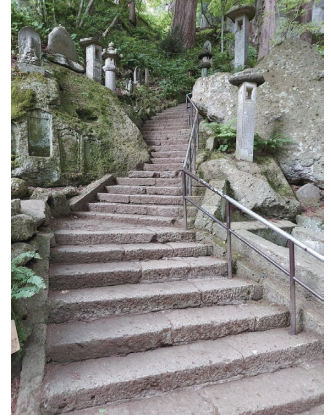
山寺入り口



お手掛け岩



四寸道



山寺の途中の階段も素敵です



弥陀洞



仁王門



五大堂からの眺望



朱に塗られた納経堂と開山堂



売店脇のポスト



如法堂 別名奥の院



三重小塔



垂水遺跡までの道のり



垂水遺跡入り口・千手院観音までの階段

性相院で御朱印を頂こうとしたが小銭を使い果たす。千円札でおつり銭をお願いしたところ「お布施には本来釣りは出せない」と説教をされてしまう。もっともなご意見、痛み入ります。皆さん、小銭はたくさん用意してから出かけましょう！

途中の山頂売店付近には赤いポストがあり、毎日郵便屋さんが集配に来るそうだ。仕事とはいえ冬場の雪景色の写真が脳裏に浮かび頭が下がる。売店で妻が絵葉書を購入。近くの見どころを聴くと、垂水不動尊を紹介された。

一息つき、目的の**如法堂**まで来たが、階段一段一段の高さが低いため意外と簡単に登ることができた。40年ぶりなので、登れるか少し心配したものの1,015段、意外と難なく登りきることができた。

帰りは別ルート。**三重小塔**は岩屋の中にすっぽりと収まっており、可愛らしい。

下りもあっさりと降りることができ、お店で甘酒をいただき少し休んで先ほど伺った**垂水不動尊**へ。

車を道端につけ、踏切というか線路を渡り階段を上ると千手院観音が。そこからしばらく豊かな自然、いや熊でも出そうな坂道や階段を上るともう足がダメ！妻は平気で登っていくので、一生懸命追いかける。そんな感じで15分ほど歩くと突然目の前に大岩が。そしてそこには鳥居が。**垂水遺跡**、山寺よりも人氣がなく、隠れ家的な静かで心地よい場所である。

メインディッシュの後のデザート感覚で来たが、焼肉定食のようなヘビーな階段であった。

金沢市内

金沢市内に主計町(カズエマチ)茶屋街がある。風情のある街並みなのだが、階段も負けず劣らず趣深い。名前がついた有名な階段が2つ。昔からある**暗がり坂**。もう1つは**あかり坂**。こちらは作家の五木寛之氏が命名し「暗い夜のなかに明かりをともしような美しい作品を書いた泉鏡花を偲んで、あかり坂と名づけた。あかり坂は、また、上がり坂の意(こころ)でもある」と、標柱に刻まれている。両者ともに街並み・風情・形状と3拍子そろった見事な階段！もう最高ですね。

少し遠出をした旅先での階段でした。



垂水遺跡



金沢市内 暗がり坂



金沢市内 あかり坂

